

平成20年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	高校生の職業意識の向上を図るため、専修学校・高等学校及び企業の連携による職業教育(自己啓発)の展開		
法人名	学校法人 帯広コア学園		
学校名	帯広コア専門学校		
代表者	理事長 神山 恵美子	担当者 連絡先	遠田 康美 0155-48-6000
<p>1. 事業の概要</p> <p>高校生の職業意識の向上を図るため、十勝管内の専修学校・高等学校及び企業が連携し、その機能を活かした職業教育を展開する。本事業では、サブテーマを「夢実現講座」と題し、具体的な進路を見出せるよう高校生の自己啓発に重点をおいたカリキュラムを設定し、職業に必要な技能・技術の学習意欲と職業意識の高揚を図る。さらに、本取り組みにより、本校が地元若者の職業教育の中核機関として活動するとともにカリキュラムの構築を図る。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業実施の特徴は、副題として「夢実現講座」と題し、自己啓発に力点を置きながら高校生の職業意識を向上させ、職業教育に結びつけたところである。</p> <p>本事業を実施した各専修学校の専門性を活かした職業教育とともに、各企業等からの協力を得た職場体験はもちろんであるが、特に、自己啓発を促すための、講演やパネルディスカッションを含めた講演は全3シリーズで「自分に合った職業の見つけ方」「ゴールに向かって集中する」「徹底シュミレート！卒業後の人生」をテーマに実施し、実際に夢を実現させた講師陣の熱く温かい講演により、高校生は自らの夢に向かって突き進むための自己認識や自己努力の活性につなげさせることができた。</p> <p>よって、高校生の夢実現のための自己啓発という視点にたった職業教育の事業展開が実施できた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>体験学習及び職場体験では、単に職業から推測できる仕事内容ばかりではなく、特に、ブライダルビューティーコーディネーターになるコースのウエディングドレス試着、WebクリエイターになるコースのオリジナルTシャツ作り、ホテルスタッフになるコースのカクテル作り、介護福祉士になるコースのアロマセラピーなどは、仕事内容の幅広さや奥深さが実感できる体験メニューを加えることにより、高校生の興味関心を引き出すことができた。</p> <p>また、職業適性診断を実施し、自分の強みを見つけ、それを活かした職業を知る機会を得ることにより、夢に向かって自分の何を改善し、そして、何をさらに磨くのかという自己覚知と新たな自己課題が見出せたといえる。</p> <p>自己啓発を促すための、講演やパネルディスカッションを含めた実際に夢を実現させた講師陣の熱く温かい講演により、高校生は自らの夢に向かって突き進むための自己認識や自己努力の活性につなげさせることができたといえる。</p> <p>このように、昨年来からの本事業の成果により、地元の専修学校の連携がより密接となり、さらに、地元十勝の各業界の企業や施設などとの連携が図れ、地元が一丸となって若者の人材育成に取り組む連携体制にあるため、本事業の職業体験や職場体験は、より協力的に充実した内容で実施できた。</p>			

③今後の活用

- ・ 地元企業、施設、関係機関との連携をより密接にして、若者の職業教育および人材育成に取り組む。
- ・ 職場体験の機会、現場で働いている方々の声や姿に直接触れる機会をさらに設けていきたい。
- ・ 体験学習は、仕事内容の幅広さや奥深さが実感できる体験メニューを加えることにより、高校生の興味関心を引き出し、さらに、それぞれの仕事内容の幅広さや奥深さを実感させることができるので、職業教育内容も既存の基礎教育に留まらず、時代や地域の実情に遅れない教育内容を検討していきたい。
- ・ 職業適性診断は今後も実施し、さらに、その診断結果をもとに職業教育として自己研鑽や職業選択に結びつけるよう個別対応を重視した職業教育をおこないたい。
- ・ 自己啓発により、社会人基礎力や人間力を養う人材育成を目指したい。

④次年度以降における課題・展開

- ・ 高校側に多数の学生の参加協力を願うには、1年間前から年間スケジュールに組み入れていただかねばならないとのこと。また、高校側へ事前に、対象者は、専修学校入学希望者だけでなく、就職希望者や大学進学者も対象としている旨でもって案内したが、参加高校生の多くが結局、各専修学校入学希望者であった。
- よって、参加者は高校3年生が多いが、1年生および2年生を主な対象とし上で、進路指導の一環として高校側に呼びかけ夏休み前の7月、または時期を遅らせ2月実施も検討する。
- ・ 本校及び各専修学校は、帯広市内に位置するため十勝の各町村から参加の場合は親の送り迎えに頼ることになるため、今回協力校を中心とした3方向の送迎バスを出すことにした。利用した高校生や高校側からは、「送迎バスがあったからこそ参加でき、たいへん助かった。」という言葉を頂いたが、実際の利用数は少なく、予算が付かなければ採算の取れない結果であった。
- よって、職業体験や講演会等の会場として、各専修学校を会場とすることを前提にしているが、本校の位置する十勝圏の高校生が一同に参加しやすい会場の設定として、駅前の公共施設を借りて実施する案も検討したい。
- ・ 職業適性診断については、診断結果を踏まえたアフターフォローがなかったため、診断するだけでなくその教材を使った講座や個別対応の必要性を痛感する。
- ・ 高校への出前講座も企画し実施したものの、複数の高校側から積極的に受け入れの返答をいただけたものではなかった。理由は、やはり年度計画にないものであるし、全学生を参加させるには時間的余裕もなく、また高校側が関心を寄せる講座内容の吟味が不十分であった。今後は、高校側、高校生が関心を示すよう、ニーズを把握し、具体的な内容の出前講座に取り組みたい。
- ・ 職業教育は、高校生のみならず、中学生、小学生のように、幼少期から様々な職業に触れる機会が必要であり、夢に向かって自己研鑽させていく職業教育・人材育成が必要と思われる。よって、民間の専修学校からのアプローチには限界があるため、高等学校・中学校・小学校側の積極的な受入体制を整備してもらえよう各教育委員会への働きかけも急務であるといえる。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

講座名：「夢実現講座」

カリキュラム：

- (1) 希望の職種クラスを選択
 - A 調理師になる
 - B カラーコーディネーターになる
 - C ブライダルビューティコーディネーターになる
 - D IT技術者になる
 - E Webクリエイターになる
 - F メディカルクラークになる
 - G ホテルスタッフになる
 - H 介護福祉士になる
- (2) 仕事内容の理解
各職種の説明(職業紹介冊子(漫画パンフ作成)の活用)
- (3) 体験学習
現場の専門家による実践的体験内容
- (4) 適職診断・職業適性診断
今後の進路選択や自己研鑽の参考となるよう適職診断・職業適性診断を活用
- (5) 職場体験
現場を身をもって体験する
- (6) 自己啓発を盛り込んだ講演
「自分に合った職業の見つけ方」
「ゴールに向かって集中する」
「徹底シュミレート！卒業後の人生」
- (7) 高校出前講座
「なりたい自分になる就きたい仕事に就く」

②その他(特徴)

- (1) 高校生に対し職業教育を行なううえで、高校教員や保護者による各職業や職業教育内容の理解が、最も有益という視点にたった事業内容の設定
- (2) サブテーマを「夢実現講座」と題し、自己啓発を促す講演内容の設定
- (3) 出前講座
→ 講座の開催場所を連携高校で実施
- (4) 職場体験
→ 職場体験の対象を高校生のみならず、高校教員及び保護者も対象とする
- (5) 体験学習
→ 現場の専門家による実践的で魅力的な内容を盛り込んだ体験学習の設定
- (6) 適職診断・職業適性診断の実施
- (7) 職業紹介冊子の作成
- (8) 遠方生徒のために、交通の利便性を考慮し送迎バスの手配